

順天堂医院ニュース 2022 NO.79

2022年度を迎えて ～院長報告～

4月から院長に再任していただきました高橋でございます。病院幹部につきましては、清水、坂本、桑鶴の各副院長にはご留任いただき、山路院長補佐が副院長に昇格、さらに外科系部門の強化のため、呼吸器外科の鈴木健司教授を院長補佐にお迎えしました。また、3月に定年退職された荒川薬剤部長の後任として、木村利美先生に薬剤部長にご就任いただきます。新体制で心機一転、患者第一の精神で病院運営をしております。今年度もご支援、ご協力のほどよろしく申し上げます。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、年末までは新規感染者も少なくこのまま収束をすることを期待していましたが、1月中旬以降オミクロン株による爆発的感染増加が続きました。2月下旬以降わずかに減少に転じましたが、今後も変異株への置き換わりによる感染者数の増加が危惧されています。当院においてはこれまで多くの入院患者さんを受け入れてまいりましたが、幸いにも問題となるような大きな感染は起きておりません。

今年1月国際的な病院機能評価である JCI (Joint Commission International) の更新審査を受審、高いスコアで更新をすることができました。感染対策についても高く評価されました。従来から行っている医療費あと払いクレジットサービス、お薬配達サービス、ウォークスルー検査、メディカル・コンシェルジュに加えて、今年は診療の待ち時間短縮のための様々な取り組みを行っております。

当院は COVID-19 診療は当然のこと、特定機能病院としてがん、重篤な心臓病、難病などの患者さんに対しても高度で安全な医療を提供し続けてまいります。昨年10月に就任した血液内科の安藤美樹教授、耳鼻咽喉・頭頸科の松本文彦教授はいずれも悪性腫瘍の大家です。12月には心臓血管外科では日本を代表する外科医である田端実教授が赴任、ハートセンターの更なる活性化を図ります。順天堂医院に來られる全ての患者さんに、最新かつ高難度の先進的医療を万全の「医療安全体制」のもと提供してまいります。

順天堂医院は今後も「Patient First」な医療を「不断前進」の心意気で届けてまいります。今後とも皆様のご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



順天堂大学医学部附属順天堂医院
院長 高橋 和久



副院長ご挨拶

2021年4月から順天堂医院の副院長を務めさせていただいています小児科・思春期科の清水俊明です。高橋和久院長のもと、高度で先進的な医療を行うとともに安全でやさしい医療の実践に邁進していく所存です。

順天堂医院は、最良の医療を提供するのみならず、教育・研究機関としても重要な役割を果たしていくことが強く求められています。多くの優秀な研修医が集う医育機関として、さらには全国で14施設のみ承認されている臨床研究中核病院として、その成果が多くの人達の疾病予防や健康増進に寄与し、難病を抱える方々に還元できるよう精一杯努めていきたいと存じます。

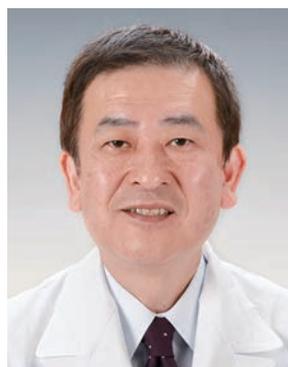
具体的には、新型コロナウイルス感染症の影響を十分に踏まえたうえでの研修医教育の再点検、予約診察室や人間ドックの活性化、病床の適正利用、各センターのさらなる充実などに尽力して参りたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



副院長 清水 俊明

高橋院長のもと副院長を務めさせていただいている大腸肛門外科の坂本一博です。手術部業務、医療安全、診療機械（外科系）、医療材料などを担当しています。

順天堂医院は、特定機能病院として、高度な医療を安全に提供できるように、全職員で取り組んでいます。2015年には国際基準の医療の質および患者さんの安全を担保した医療施設として、日本の大学病院本院では初めてJCI国際認証を取得しました。2018年に更新後、今年1月に2回目の審査を受け、更新することができました。昨年度は、新型コロナウイルス感染が蔓延した中でも、全職員で予防策を徹底しながら外来診療、入院診療そしてロボット支援下手術や高難度手術などを含めた外科手術を安全に行ってきました。これもJCI取得に取り組んだ成果と考えています。with コロナの中では、安全で安心できる医療がより一層求められています。患者さんの期待に応えられる医療を提供できるように、努力をしていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 坂本 一博

2022年4月から高橋院長体制が4年目に入ります。引き続き副院長を務める放射線科の桑鶴良平です。昨年度同様に診療機械、薬事、臨床検査、放射線、医療情報、医療環境などを担当致します。過去2年間は新型コロナウイルス感染症対策をきっかけに診療のあり方を見直してきました。会計における「あと払いクレジットサービス」の登録者数は39,000人を超え、利用率も21%を超えて会計待ち時間が短縮されました。「薬剤配送サービス(宅配)」も1日100件を超えるご利用を戴き、その中で約半数の患者さんに「あと払いクレジットサービス」をご利用戴いています。「オンライン診療」は1月約200人の患者さんにご利用戴いています。本年度は2023年1月に電子カルテの更新を控え現在鋭意準備中ですが、IT, AIの更なる活用を行うと共に職員による医療安全、診療効率、接遇の意識向上を図り、外来における混雑緩和、入院における環境改善を推進していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 桑鶴 良平

2022年4月より副院長を務めさせていただきます膠原病・リウマチ内科の山路健です。これまで二年間、高橋和久院長の下、院長補佐として取り組んで参りました医療連携をはじめ医療サービス、広報、難病医療などを引き続き、担当いたします。かかりつけの医療機関からご紹介いただいた際には円滑に適切な担当医の診療が受けられ、診療後には速やかにかかりつけの先生にご報告が出来るようにしております。社会福祉制度や医療費、就労など療養生活における様々なご心配事やお悩みを解決するお手伝いもしています。そして、最新医療に関するトピックスや療養生活に役立つ有益な情報を解りやすく皆さんにお届けするようにもしています。



副院長 山路 健

当院ではコロナ禍においても安全に安心して通院いただけるようウォークスルー検査、メディカル・コンシェルジュ、お薬配送サービス、医療費あと払いクレジットサービスなどといった様々な取り組みをしています。また、診察や検査の予約確認、外来診察の順番・進行状況、お薬の準備状況がスマートフォンで分かる通院支援アプリもご利用いただけますので、ぜひご利用いただければ幸いです。

高度で安全、安心な医療を提供するのみではなく、外来診療から入院加療、そして退院後の療養生活に至るまで、様々な状況において患者さんやご家族の方々が安心して快適な療養生活を送っていただけるようお役に立てれば嬉しいです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

院長補佐ご挨拶

4月から高橋和久院長のもと、順天堂医院の院長補佐を務めさせていただいております呼吸器外科の鈴木健司です。専門は最近特に増加傾向を認める肺がんの外科治療です。がんと言いますと日本人にとって三大疾病のひとつと言われて久しい状況ですが、かつてに比べますとかなりの方が治る時代になりました。一方でご高齢の方ががんを患う機会も増えてきており、そのような状況においては糖尿病や、脳梗塞、心筋梗塞などの血管障害、透析、間質性肺炎などの多種多様な疾患をお持ちのかたということになります。そのような疾患をお持ちのかたに対するがん治療は総合病院ならではの治療が可能です。こうした治療困難な状況における治療などはほんの一例ですが、こうした高度な質の医療を提供できるよう体制を病院全体で整えていきたいと思っております。またそうした診療のみならず、受診される患者さんの気持ちが少しでも明るくなるような病院を目指して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



院長補佐 鈴木 健司



このたび 2021 年 12 月 1 日付で順天堂大学大学院医学研究科心臓血管外科学の主任教授に就任いたしました。

心臓血管外科では、心臓弁膜症、虚血性心疾患（狭心症など）、大動脈瘤疾患、末梢血管疾患、先天性心疾患、心筋症、不整脈、心臓腫瘍など幅広い心臓血管病に対して、各領域のエキスパートが外科手術やカテーテル手術による治療を行っています。

私の専門は心臓弁膜症であり、逆流した弁を温存して修復する弁形成術、内視鏡を用いた低侵襲心臓手術（MICS）、カテーテル手術などにとくに注力しています。低侵襲治療のメリットとしては、早期退院、早期社会復帰、さらには出血量が少ないことなどがあります。一方どのような治療にもデメリットがありますので、治療選択の際には全ての治療オプションのメリット・デメリット、さらには患者さんのニーズを考慮して、個々の患者さんに最適な治療をご提案します。

心臓血管手術というと「神の手」というイメージがあるかもしれませんが、心臓血管手術は外科医だけでなく、ともに手術を行う麻酔医、手術室看護師、臨床工学技士とのチームワークが欠かせません。また、術前の正確な診断や術後のケアも手術の成否を決める重要な因子であり、循環器内科医、看護師、理学療法士、検査技師、放射線技師、薬剤師などのスタッフとともに、患者さんの心臓を守る「ハートチーム」として一丸となって診療しています。

患者さんにとって心臓血管手術は人生の一大イベントであり、その不安を和らげ期待に応えるべく、私たちは「個々の高いスキル」と「それを倍増させるチーム力」で安全かつ最適な治療を提供いたします。無料メール相談も行っていますので、心臓血管手術についてどうぞお気軽にご相談ください。



心臓血管外科
田端 実





心不全の診断補助に役立つ血液検査

～ BNP と NT-proBNP ～

(基準範囲：BNP 18.4 pg/mL 以下、NT-proBNP 125 pg/mL 以下)

BNP は B 型ナトリウム利尿ペプチドと呼ばれるホルモンの略称で、心臓に負担がかかる状態（心不全）になると、主に心室の筋肉から血液中へ分泌されます。BNP と NT-proBNP（N 末端プロ B 型ナトリウム利尿ペプチド）が結合した形で分泌され、その後 2 つに分解されます。BNP には血管の拡張や体内の塩分を排泄する作用がありますが、血液中ではネプリライシンと呼ばれる酵素で比較的短時間に分解されます。NT-proBNP には心不全を改善する作用はなく、分解されることもないため BNP よりも長く血中にとどまります。

BNP と NT-proBNP は心不全の状態を反映します。具合が悪くなる前に変化を見つけられるので、お薬の効果や心臓への負担の程度を知るために測定します。両方とも腎臓から尿中へ排泄されるため腎機能が低下した人や高齢者では心不全の状態よりも高い値となります。血中に長くとどまる NT-proBNP の方が、すばやく分解される BNP より腎機能の影響を受けやすいとされています。

一方、新しい心不全治療薬（アンジオテンシン受容体・ネプリライシン阻害薬）を内服している患者さんでは、血中での BNP の分解が抑制されて本来の値より高くなります。その場合は、ネプリライシンで分解されない NT-proBNP が測定されます。

心不全のスクリーニングや診断、経過観察では、BNP や NT-proBNP の他に、必要に応じて心電図検査や心臓超音波検査も行われます。心不全の治療は、薬物治療だけでなく生活習慣の改善も大事です。主治医の先生と相談しながら、BNP や NT-proBNP の結果を活用してください。



今回は、当院で入院患者さんに提供している病院食についてご紹介いたします。病院食は「一般食」と「治療食」の大きく2つに分けられますが、患者さん一人ひとりの年齢・性別・体格に加え、病状に応じた適切な食種を医師が選択して提供されます。

現在、順天堂医院で提供している食事は100種類以上あり、食物アレルギーや嗜好(食物の好き嫌い)、宗教上の禁忌を含めると非常に多くの個別対応が行われています。

最近では、治療により食事が進まないといった患者さん(主にがん患者)向けに『にこやか食』と『なごみ食』を開発し、栄養バランスよりも食べやすさを重視したメニュー盛り付けが喜ばれています。「食事のにおいだけで吐き気がする」といった治療に伴う食欲不振のほか、「味付けが薄くて食べられない」、「今後のことが不安で食事が喉を通らない」など、食べられない原因は様々です。栄養部では各病棟に担当栄養士を配置しておりますので、食事や栄養に関する悩みがありましたらお気軽にご相談ください。

《なごみ食・にこやか食^{*}のメニュー例》

そうめん



ロールサンド



ふくさ寿司



牛丼



※いずれも、緩和ケアチームが介入している患者さん限定で提供しています



核医学検査

～負荷心筋シンチグラフィのご紹介～



心筋シンチグラフィが有用な心臓の病気

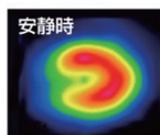
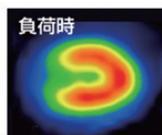
狭心症や心筋梗塞の診断には心臓の血管（冠動脈）から心臓を動かす筋肉（心筋）への血液の供給が障害されていないかどうかを知る必要があります、そのための検査が心筋シンチグラフィです。検査では心筋に特異的に集まる放射性医薬品を注射し、特殊なカメラ（ガンマカメラ）で撮影します。

負荷心筋シンチグラフィ

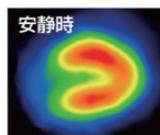
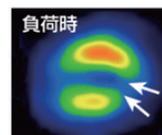
心筋への血液の供給が充分かどうかを判断するためには、心臓に負担（=負荷）をかける必要があります。負荷をかけた状態と、安静の状態（安静時）の画像を比べて診断を行います。

負荷の方法には運動によるものと薬剤によるものがあります。どちらの方法が適しているのかは、患者さんの様々な条件を考慮して決定されます。また、患者さんの状態によっては、検査当日に負荷の方法が変更になる場合があります。

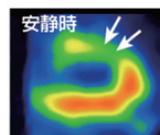
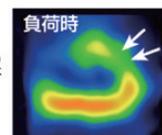
正常例



狭心症



心筋梗塞

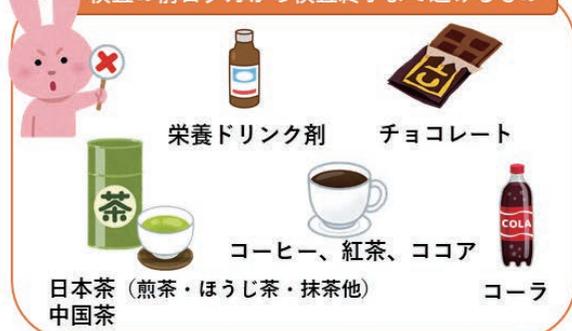


薬剤負荷検査を受けられる方への注意事項

お茶、コーヒーなどのカフェインを含む飲み物は、心臓に負担をかける薬の効き具合に影響が出ることがありますので、検査終了後までお控えください。また、気管支喘息のある方など、患者さんによってはこの方法による検査を受けることができません。必ず医師の指示に従ってください。



検査の前日夕方から検査終了まで避けるもの



検査の前日・当日含め飲んでかまわないもの



負荷心筋シンチグラフィは開始から終了まで4時間ほどの検査となります。ご不明な点はスタッフが対応致しますのでお気軽にお声がけください。





看護師と一緒に働く看護助手について紹介します

写真の水色ユニフォームを着用したスタッフは看護助手です。看護師と共に患者さんの最も身近に接し、私たちの看護に欠かせない存在です。仕事の内容はとて多く、検査室へのご案内から、病室のベッドメイキング、配膳・下膳などに加え、看護師と一緒に食事介助や、トイレへの付き添い、ベッド上でお身体の向きを変えるお手伝いをするなど、医療チームの一員として大切な役割を担っています。検査室へご案内する際など、いろいろな場面で親しくお話しをされた患者さんやご家族も多いのではないのでしょうか。

2021年の10月からは、入院病棟に夕方から従事する看護助手を新しく配置し、日中から夜間まで療養生活のお手伝いをする取り組みを始めました。研修や訓練によるスキルアップにも取り組んでいます。順天堂医院では、患者さんのケアの質を向上するために様々なメディカルスタッフが関わり、協力しています。



看護助手として経験豊富なお二人に
写真協力をいただきました！



患者さんを車いすでご案内する様子
いつも笑顔を大切にしています。

今日からはじめる

健康講座



4 月号



総合診療科 教授
小林 弘幸

春先に注意する自律神経のポイント

寒さが和らぎ、過ごしやすい時期になったにも関わらず、身体がだるい、目覚めが悪い、イライラする、夜眠れないなどの不調を感じている方も多いのではないのでしょうか。このような症状は、自律神経の乱れが原因かもしれません。

春になると日本の上空では寒気団が弱まり、そこに暖かい空気が流れ込んでくるため、寒気と暖気がぶつかって低気圧が多く発生します。いわゆる“爆弾低気圧”が発生すると、空気中の酸素が薄くなるので体は活動に適さないと判断し、副交感神経優位の休息モードになります。さらに、身体にかかる圧力が変化するため、頭痛、腰痛、関節痛などの痛みが発生したり、血流の変化でめまいやむくみを感じたりすることもあります。特に4月は1年のうちで昼と夜の寒暖の差が大きい時期でもあり、自律神経のコントロールが難しくなることも不調を助長してしまう原因となります。

乱れがちな自律神経を整えるには、心の負担になっていることを極力減らすことや、身体を動かすことが大切です。リモートワークも一般的になってきており、自宅で過ごす時間が増えたことで気分転換も難しく、運動不足になりがちです。日常の中で、前向きな気持ちになれる時間を設ける、お気に入りの洋服を着る、また家の中でスクワットなどの軽い運動を取り入れる、散歩に出かけるなど、心と体の両面から自律神経を整える習慣を身に付け、春を快適に過ごしたいものです。

順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-8431 文京区本郷3-1-3

TEL：03-3813-3111（大代表）

編集 広報管理運営委員会

発行 事務部 管理課（2022年4月発行）

ホームページ

<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>

順天堂医院

検索



【順天堂医院HP】